

Konica Topites



コニカとミノルタ、経営統合を発表

2003年1月7日、コニカ(株)とミノルタ(株)は、両社対等の精神のもと、全面的に経営統合することを発表し、「経営統合に関する基本合意書」を締結しました。

また、経営統合発表の席で「統合効果を早期発揮するため、経営の透明性を重視した委員会等設置会社を選択する」と発表し、2003年6月、コニカは「委員会等設置会社」へと移行しました。新しい経営体制を取り入れることで、経営のスピードと透明性を一層高め、コーポレートガバナンスの強化を図っていきます。

コンプライアンスの推進に向けては、新たなプログラムとして「コニカ行動憲章」の理念に基づき、一人ひとりの行動の拠り所とする「行動指針」を策定しました。また、問題に気づいた社員が直接申し出できるよう、相談窓口となる「ヘルプライン」を新しく設置しました。

ロシア・アメリカ両駐日大使による写真展を開催

2003年4月12日～18日、コニカプラザにて「A Slice of Life - ロシア大使とアメリカ大使のフォトセッション -」が開催されました。

日本では1998年より、写真展「につぼん 大使たちの視線(コニカ特別協賛)」が継続開催され、各国の駐

日大使による文化交流が行われています。今回は特に、ロシアとアメリカという二大大国の大使による個展ということで、大きな注目を集めました。駐日ロシア連邦特命全権大使アレクサンドル・N.パノフ閣下は、「Taste of Japan」と題し、愛情に満ちたさまざまなで日本のテイストを表現。写真家としても知られる駐日アメリカ合衆国特命全権大使ハワード・H.ベーカー閣下は、30年間に及ぶ日々の出来事を「My Diary」と題する作品群で紹介されました。

また、開催前日の4月11日には、両大使ご臨席のもと、レセプションパーティが行われ、大勢のVIPの皆様にご来場いただきました。



「排出権取引」で、温室効果ガス(CO₂)削減を推進

コニカは本年4月より、「排出権取引制度」を導入しました。この制度は、ライフサイクルアセスメント(LCA)手法で各社製品の全ライフサイクルよりCO₂排出量を算出し、各年度ごとの目標削減量に達しなかった会社が、目標以上に削減できた会社が持つ余った排出権を購入するものです。

CO₂排出量は、製品や工場ごとに大きな差があるため、各社の排出量にも差が出てきます。排出権取引の導入により、グループ全体としての排出総量が削減できるようになります。

小田原事業場が「エネルギー管理優良工場」を受賞

コニカ小田原事業場が「平成14年度エネルギー管理優良工場(熱部門)経済産業大臣表彰」を受賞しました。この表彰制度は、エネルギー使用の合理化と燃料資源の有効利用を図るため、他の模範となる成果をあげた工場を表彰するものです。なかでも「経済産業大臣表彰」は、過去に「資源エ

ネルギー庁長官表彰」を授与され、その後も顕著な実績をあげていることが選考基準となります。小田原事業場は、廃熱回収、コージェネレーション導入、代替エネルギー活用等の長年にわたる多面的な省エネ活動が評価され、今回の受賞に至りました。

コニカ陸上競技部「ニューイヤー駅伝」大会新記録で3連覇を達成

2003年元旦に行われた「ニューイヤー駅伝 第47回全日本実業団対抗駅伝競走大会」で、コニカ陸上競技部が3大会連続3度目の優勝を飾りました。昨年の自己記録を44秒更新

する、4時間44分48秒の大会新記録を樹立。本大会での3連覇は、旭化成、エスビー食品に続き、3社目の快挙です。

酒井監督は、「3連覇という偉業を実感している。アクシデントがあっても結果的に勝てるのが、本当に強いチームだ。今後は、世界に通用する個人も育てていきたい」と語っています。

陸上競技部の活躍は、コニカのブランドイメージ向上にも大きく貢献するものです。勝利に向けて、選手ならびに関係者一同、これからも邁進し続けていきます。

